

令和5年度 第3回 中央区保健医療福祉計画推進委員会 地域福祉専門部会 会議記録

●日時 : 令和6年2月8日(木) 午後6時30分～8時00分

●場所 : 中央区役所8階 大会議室

●出席者 : 【委員】 11名

部会長 和気 康太 (明治学院大学社会学部教授)
川上 富雄 (駒澤大学文学部教授)
鈴木 英子 (中央区民生・児童委員協議会(京橋))
津田 章 (中央区民生・児童委員協議会(日本橋))
早乙女 道子 (中央区民生・児童委員協議会(月島))
松見 幸太郎 (NPO法人キッズドア)
片桐 義晴 (中央区社会福祉協議会地域ささえあい課長)
林 裕一 (おとしより相談センター)
鈴木 崇弘 (基幹相談支援センター)
大久保 稔 (福祉保健部長)
北澤 千恵子 (高齢者施策推進室長)

〈欠席者〉 1名

安西 暉之 (日本橋地域町会連合会)

(敬称略: 順不同)

【事務局幹事】

植木 清美 (福祉保健部管理課長) 古賀 政成 (子育て支援課長)
石井 操 (生活支援課長) 岡田 純 (障害者福祉課長)
左近士 美和 (子ども家庭支援センター所長)
阿部 志穂 (高齢者福祉課長) 河内 武志 (介護保険課長)
平川 康行 (地域振興課長) 森下 康浩 (文化・生涯学習課長)
岸 雅典 (社会福祉協議会管理部長)

〈欠席者〉 0名

(敬称略: 順不同)

●傍聴人 : 2名

●議事次第

- 1 開 会
- 2 議 題
 - (1) 令和6年度地域カルテの更新について
- 3 報告事項
 - (1) 中央区重層的支援体制整備事業について
 - (2) 令和5年度地域福祉ワークショップ実施報告
 - (3) 地域福祉専門部会検討結果報告書について
- 4 閉 会

●配布資料

- 資料 1 令和 6 年度地域カルテの更新について
- 資料 2 - 1 中央区重層的支援体制整備事業実施計画
- 資料 2 - 2 ふくしの総合相談窓口について
- 資料 3 令和 5 年度地域福祉ワークショップ実施報告
- 資料 4 地域福祉専門部会検討結果報告書
- 資料 5 意見票 ※当日配布

- 参考資料 1 地域福祉専門部会委員名簿
- 参考資料 2 座席表
- 参考資料 3 令和 5 年度第 2 回地域福祉専門部会会議記録
- 参考資料 4 令和 5 年度第 2 回地域福祉専門部会意見票のまとめ

次第	発言者	議事の状況又は発言内容
1 開会	部会長	開会のあいさつ
(連絡事項について)	部会長	連絡事項について確認。
	管理課長	連絡事項の報告。
(委員出欠状況)	管理課長	委員欠席を報告。
(傍聴、配布資料の確認)	部会長	傍聴希望者について確認。
	管理課長	傍聴希望2名の旨を報告。 《傍聴者入室》
	部会長	配布資料について確認。
	管理課長	配布資料を確認。
2 議 題	部会長	議題(1)令和6年度地域カルテの更新について、説明を求める。
(1) 令和6年度地域カルテの更新について	管理課長	資料1、令和6年度地域カルテの更新について説明。
	部会長	何かご質問、ご意見はあるか。
	委員	地域カルテの配布先として町会・自治会長と記載があるが、配布されても、会の活動に反映されていないところが多い。区からの案内も町会・自治会の事務所の机に置かれたままで、住民に情報が伝わっていないかもしれない。 地域カルテが、町会・自治会でどのように活用されているか見えてこないため、ただ配布するのではなく、行政側から地域カルテの活用を働きかけた方が良いのではないか。
	管理課長	地域カルテは、作成から何年も経過している。ただ作成して配布するのではなく、活用方法も含め検討していきたい。
	委員	活用方法を検討されるとのことだが、中身が不明瞭である。どのように町会・自治会に情報を伝えているのか、見えてこない。
	管理課長	区としても、地域カルテを配布したままにしている。町会・自

	<p>治会長だけに届くのが良いか、地域で回覧できるようにするのが良いかという情報の流れも含め、検討させていただきたい。</p>
<p>部会長</p>	<p>行政は、取組を証明するために、冊子等の作成・住民への配布を行っている。そして、住民に情報が伝わっているという仮定の下、業務に取り組んでいる。</p> <p>そこでは、情報を受けた民間の側が、地域福祉活動にどのように活用するかが問われている。ちなみに、社会福祉協議会では、地域カルテをどのように活用しているのか。</p>
<p>社協管理 部長</p>	<p>社会福祉協議会としては、地域カルテの活用にはまだ至っていない。しかし、何事も続けて取り組むことが大事だと考えている。</p> <p>地域福祉は日々変化するものである。地域の情報は直ぐに陳腐化してしまうが、毎年更新され常に最新の情報があるということは、何かあった時にすぐ地域カルテを使い動ける環境が整っていると認識している。</p>
<p>部会長</p>	<p>委員より、地域診断についてお話しいただいてもよろしいか。</p>
<p>委員</p>	<p>地域カルテを活かすかどうかは地域に任せられているが、中央区は都市部であり、地域を基盤とした支え合いの活動を展開できる土壌が薄いと思う。地域ベースの活動が増えて広がれば、データに目が向き、活かし方も分かるのではないか。</p> <p>中央区の場合、コミュニティ型よりも、アソシエーション型の住民活動が盛んである。テーマ別に集まったボランティア、NPOの支援に軸が置かれており、地区別のデータが十分活用されていない。</p> <p>委員からの意見を踏まえ、前回配布した地域カルテの最後には活用例を追加している。例を見て、今後、町会・自治会でも活かしていただきたいと思う。活用例に「町会・自治会でぜひ活用してください」の一文を加えても良いかもしれない。</p>
<p>部会長</p>	<p>このような会議で議論すると、月島地域はこんな感じ、日本橋と京橋はこんな感じといった感覚的な話となる。それでは的確な地域福祉活動は推進できないと思い、私から地域診断のための「地域カルテ」の作成を提案した。</p> <p>指標を作り、科学的に各地域を診断することで、地域の特徴が見えてくると、ニーズや介入の仕方等が分かる。ソーシャルワークの世界には、インターベンション（介入）という概念がある。</p>

	<p>その介入の仕方を考える、最初の一歩としての地域診断を行うために、地域カルテを作成したわけである。地域カルテを上手く活用できれば、適切に介入し、地域を変えていくことも可能である。</p> <p>何故、社会福祉協議会に話を振ったかという、その地域を変える実行部隊が、社会福祉協議会だからである。社会福祉協議会は、区民に対してフレンドリーであるので、上手く介入し、地域を望ましい方向へ変えてもらえると良い。</p> <p>その意味で言うと、地域カルテの活用の仕方が不十分である。せつかく更新しているのに、地域カルテを活用して地域を変えることができないのはもったいない。ただし、委員がおっしゃったように、中央区はコミュニティ型ではなくアソシエーション型の住民活動寄りである。色々な団体がどのように地域カルテを活用するかは、少し戦略が異なると思うが、上手く活用してもらえると良い。</p> <p>また、委員のご指摘は大事なことであり、どのように活用しているのか質問を受けたら、しっかりと答えられるようにしないとイケない。</p> <p>高齢分野の生活支援コーディネーター、対象を限定しない地域福祉コーディネーターが情報を上手く使い、地域支援に生かす他、民間団体、NPO等にも活用してもらえると良いだろう。</p>
委員	<p>地域カルテをより活用してもらおうのであれば、色々な団体に配った方が良いのではないか。</p>
管理課長	<p>資料記載の配布先は、令和5年度の配布先である。ご意見を踏まえ、令和6年度の配布先を考えていく。</p>
部会長	<p>よろしくお願ひしたい。無制限に配布するわけにもいかないし、制約もあると思うが、もう少し配布先を広げても良い。</p> <p>また、区のホームページにアクセスして、デジタルベースで地域カルテを見る人もいると思う。その人たちの属性が分かると、それ自体が一つのデータになるので、何か工夫できないか。例えば地域カルテにアクセスした際に、アンケートへとつながるリンクを設け、属性や活用方法等についてご意見いただき、データとして集めていく等、その辺りを一工夫していただきたい。</p>
管理課長	<p>ホームページのリンクについてだが、単なるリンクであればできると思う。自動的にアンケート回答ページに移動するのは、技術的にできるか分からないため、そのあたりも含めて活用の仕方</p>

委員	<p>を検討していく。</p> <p>他団体への地域カルテの配布については、範囲など、色々と制約があると思う。社会福祉協議会と関わっている団体も多いと思うので、そのあたりも協議しながら検討していきたい。</p> <p>以前から申し上げているとおり、デジタルデバイスの活用は、中央区だからこそ先進的に取り組まれる方が良い。</p> <p>おそらく、紙媒体を希望する年代の層と、そうでない層とで分かれると思う。今の議論は紙媒体で広げていくやり方だと思うが、紙媒体を希望しない層へのアプローチの仕方は、別の視点で検討する必要がある。</p> <p>ホームページへのリンクも、現状難しかったとしても、技術的にできないことではないと思う。中央区はインスタグラムでも情報発信をしているが、例えばインスタグラムで、地域カルテを紹介するリンクを入れるのは、そんなに難しいことではない。そうした工夫を取り入れていただき、デジタルネイティブに近い人たちに情報を届けてはどうか。</p> <p>また、二次元コードを読み込むとクイズが出てきて、選択した内容に応じて興味がある福祉分野のページへとリンクすることは、おそらくできると思う。そうしたことを検討しつつ、色々な世代に情報を広げていくことは、地道に取り組むしかないと思う。ぜひその辺りもご検討いただきたい。</p>
管理課長	<p>現状、地域カルテを区のホームページに掲載しても、掲載案内をLINE、インスタグラムで周知はしていないので、そういったSNSも活用しながら、周知をしていきたいと思う。</p> <p>個人的には、地域カルテは地区別になっているので、何か調べる時に大変役に立っている。そういった観点から、区民の皆様にも使っていただけるよう、周知をしていきたいと思う。</p>
部会長	<p>区として、デジタル戦略を掲げていると思うがいかがか。</p>
委員(区)	<p>区として、デジタル化を進めるための計画は作っている。ただし、区民全員に情報を伝えていくためには、紙媒体も残す必要がある。どうしても紙媒体と電子媒体が並行になってしまうため、デジタル化が遅々として進まないというご意見もある。</p> <p>今のご意見とは少し反れるが、先日より新しい「デジタル化計画」が動き出しており、デジタル化に向けて少しずつ取り組んでいるところである。</p>

3 報告事項
 (1) 中央区重層的支援
 体制整備事業につ
 いて

部会長	<p>ユニバーサリズムとセレクトイビズムという言い方をするが、この問題には普遍主義と選別主義が存在している。区民全体が普遍主義であるが、社会福祉のターゲットは、全員ではなく一部の人たちである。ある種の選別をして、その人たちにサービスを届けるとなると、選別主義にならざるを得ない。</p> <p>一部の人をターゲットに何かをすることに対し、普遍主義から外れるためできないというのは、詭弁に近いロジックだと思う。</p> <p>福祉保健部からデジタルを担当するセクションに、特定の人たちに情報を届けたいから、そうした戦略、計画にできないかと働きかけてもいいと思う。断られるかもしれないが、働きかける価値はある。そうすることで、ご意見にあった色々なことが、区としてできるのではないかと。</p>
委員(区)	<p>貴重なご意見、感謝申し上げます。区民全員という視点は当然あるが、部会長のお話を伺い思ったのは、支援が必要な方一人ひとりに伝えようとした場合、どうしても紙媒体ありきで考えてしまう点である。</p> <p>一方で、支援する側に伝えれば、間接的に支援される方にも情報が伝わると考えると、もう少しデジタルの活用も講じられると思うので、その辺りを含めて検討したい。</p>
部会長	<p>ぜひお願いしたい。福祉保健部がイニシアチブを取り、変えていく必要もあると思う。セクションが異なるので難しいと思うが、ぜひそうしてもらえると良い。</p>
部会長	<p>報告事項(1)中央区重層的支援体制整備事業について、説明を求める。</p>
管理課長	<p>資料2-1、中央区重層的支援体制整備事業実施計画について説明。</p>
部会長	<p>何かご質問、ご意見はあるか。</p>
委員	<p>資料の5ページ、ふくしの総合相談窓口のコラムにおいて、前半はターゲット層の幅が広く、どの層を想定しているのか判断が難しいが、後半の生活困窮等の相談の対象者は、ある程度、行政側で把握していると思う。</p> <p>先ほどの周知の話にもつながるが、この場合、自立相談支援機</p>

	<p>関の窓口がふくしの総合相談窓口と一つになったという周知を、生活困窮等の相談対象者へ個別に行う予定はあるか、または検討されているか伺いたい。</p>
管理課長	<p>くらしとしごとの相談窓口は、一定の成果が出たら終結となるため、今のところ、相談対象者への周知は考えていない。</p> <p>ただし、ふくしの総合相談窓口ができたことは、様々な形で目に触れ、その存在を知っていただきたいので、周知方法は引き続き考えていく。</p>
委員	<p>中央区のサービスについて、私たちの団体から保護者の方にお話しする機会もあるが、私たちの団体に関わる高校生世代までのご家庭で、特に困窮世帯といわれるご家庭だと、サービスを知らないことが多く、大変残念に思っている。</p> <p>当事者の中には、地域にサービスがあることを、自らキャッチできる方と、そうでない方たちがいらっしゃる。私たちに関わる中だと、そうでない方たちのほうが多い。そうした世帯の対象層が分かるのであれば、配布物を送付する時に一緒に周知を行うなど、根気強く周知する必要があると思う。ぜひご検討いただけるとありがたい。</p>
部会長	<p>1回だけではなく、2、3回周知を図り、併せて色々なところから情報が届くことで、ようやく情報にアクセスできるようになる。一見すると無駄に思えるかもしれないが、どこかで上手くつながれると良い。いまのご意見を参考にして、広げていただければと思う。</p> <p>この度、中央区保健医療福祉計画の中間年の見直しが行われるが、本日の資料が「中央区重層的支援体制整備事業計画」として冊子の中に組み込まれる。基本的には非常によくできており、こういう形で掲載し、進めていくことになる。</p>
部会長	<p>引き続き、資料2-2の説明を求める。</p>
管理課長	<p>資料2-2、ふくしの総合相談窓口について説明。</p>
部会長	<p>何かご質問、ご意見はあるか。</p>
委員	<p>ふくしの相談窓口の「ふくし」が平仮名になっているが、その理由をお教えていただきたい。</p>

管理課長	<p>前回までは漢字で「福祉」としていたが、すべて漢字だと堅いイメージがあるため、柔らかくできないか検討し、「ふくし」と平仮名にしたところである。</p>
部会長	<p>看板も平仮名で「ふくし」となるのか。</p>
管理課長	<p>案内板等についても、平仮名で案内していく予定である。</p>
部会長	<p>文書での漢字の「福祉」と、窓口の平仮名の「ふくし」で何か意味が異なるのかという質問が、区民から出てくることはないか。</p>
委員	<p>私は良いと思う。日頃、民生・児童委員として、色々な相談を受けるが、総合相談窓口ができるということで、私たちが橋渡し役として、もっと一生懸命に働かないといけないと思っている。</p>
委員	<p>本日の部会で、初めて平仮名の「ふくし」になると知った。今のところ良い悪いはないが、漢字のイメージが強かったので、どうしたのかと思ったところではある。</p>
社協管理 部長	<p>ネーミングには私も少し関与しているので、一言申し上げる。漢字で「福祉」というと、一般の方は福祉のお世話になる等、ネガティブな印象で捉えがちだと思っている。</p> <p>平仮名にすることで、地域の皆様が地域福祉に参加する、役所に任せるのではなくて、自分たちが福祉の担い手になっていくのだという意識を持ってもらえるのではないか。</p>
部会長	<p>ただ今、ご説明のあったような思いが込められているということである。平仮名に何か特別な意味があるのか聞かれた時に、今みたいにすぐに答えられると良い。</p> <p>ふくしの総合相談窓口は、まだ過渡的だと思っている。京橋地域に設置し、そこから月島地域、日本橋地域と3地域に設置した段階で、どのように機能するか改めて評価できると思う。</p> <p>ただし、まずは一般論だが、京橋地域に設置した窓口を、しっかりと評価することが大切である。どこに課題や問題があるのかを的確に評価して、月島地域、日本橋地域へと生かしていくことが求められている。</p> <p>ふくしの総合相談窓口は、ある種のチャレンジである。こうした窓口を作るのは、おそらく戦後の社会福祉の中で初めての挑戦</p>

(2) 令和5年度地域福祉ワークショップ実施報告

部会長

で、実際に運用すると色々な課題が出てくると思う。それを上手く月島地域、日本橋地域のふくしの総合相談窓口にフィードバックしていただきたい。

あとは、本部会でもお話したことがあるが、他の自治体で話を聞くと、色々なセクションを回った、いわゆるエース級の相談員を総合相談窓口投入した結果、そのエース級の相談員が抜けたセクションが手薄になったという話を聞いている。

結局は、すべて人の問題である。これは、相談員をどう育てるか、相談員のレベルをどう上げてくのかにもつながる。エース級の相談員をふくしの総合相談窓口投入したことにより、他のセクションが手薄になることのないように、ソーシャルワークの研修会を通じてレベルアップを図っていただきたい。

管理課長

報告事項(2)令和5年度地域福祉ワークショップ実施報告について説明を求める。

資料3、令和5年度地域福祉ワークショップ実施報告について説明。

部会長

最初に講師を務めた委員にご意見をいただき、その後参加された委員より感想をお話いただきたい。

委員

グループワークは非常に熱気があった。参加者の地域に対する思いを強く感じた。

私が思うのは、せっかく熱い思いを持ち、参加して色々と語っていただいたのに、来年の1月までワークショップは開かれなから、また来年会いましょうといった形で終わらせるのではなく、参加者をキーにして、中央区内で何か新しい活動を始められるような、組織絡みの支援につなげていけると良い。

例えば、参加者を日本橋、京橋、月島の3地域に分けて、アフターフォローの集まりを持ってもらい、各地区で何ができるかという話し合いにつなげてはどうか。1年に1回の集まりだと課題出しの繰り返しになってしまい、前に進まないと思う。参加者の熱い思いを受け止めて、何かしらの課題解決、地域課題の解決につなげる支援を、区、社会福祉協議会のどちらでも構わないので、取り組んでもらいたい。

また、資料3の6ページ、講師講評の3つ目の丸、テーマ別のつながりを増やすについてだが、2グループではペットを飼っている人たちのつながりをつくりたいという意見が出ていた。能登

半島の地震直後でもあり、ペット飼育者の避難先という共通の悩みもあり話が出たのだと思う。テーマを細分化しても良いと思うが、何かしらの組織をつくる手伝いが必要である。とにかく組織をつくらないと、解決に向けて本人たちは動かないだろう。

委員

私のグループには、町会活動をしている方、勝どきダイルームで活動中の方、民生・児童委員等がいた。委員がおっしゃったように、今回で終わりにするのはもったいなく、こういうメンバーで、年に3回ぐらいは、地域のことを話し合えたらと思っている。

私も誘われたが、グループの中の2人が意気投合し、ワークショップの後に飲みに行かれたようである。地域福祉ワークショップへの参加をきっかけに新たな交流が生まれており、とても良かったと思う。

今回、何故、参加者が増えたのか分からないが、町会活動をしている人も他の活動をされていたり、勝どきダイルームで活動している人も町会活動を一生懸命されていたり、若い人も結構多く参加していて、とても良かった。またの“出会い”があると良いと思う。

委員

ペットの話が出たのは、私のグループだったと思う。京橋、日本橋、月島から数人ずつが参加したグループだった。それぞれ、町会・自治会等に入りながら地域で活動しており、本当に地域のことを考えていらしかった。

委員の話ではないが、全体で話し合うのも良いが、地域に戻り自分たちの地域をどうするかとか、これからの地域について話ができたら良いと思った。今回限りにはせずに継続して話し合い、地域に何か残せるものができたら良いと思う。

違うグループでは「ふるさと」の話が出ていた。中央区で生まれた子どもたちが、ここが私のふるさとと言えるような地域にしたいという話を聞き、大好きな中央区でいられることは大事なことだと、私自身も感じたところである。

委員

グループワークは、課題にフォーカスされがちだが、私が参加したグループでは、地域の良いコミュニティ活動、ポジティブな話が出ていた。他のメンバーも同様だと思うが、そういうつながりのつくり方があったのか、そういう方法もあるのか等、気づかされる場面があった。

ワークショップで議論するのはもちろん良いことだが、例えば好事例の報告があると、参加者も新しい視点で考えることができ

て良いのではないか。自分の地域の中に落とし込む、良いヒントの種を持っている方が、たくさんいると分かったところである。

あと、私のグループで特徴的だったのが、グループメンバーが旧来から中央区に住んでいる方と、マンションに移り住んだ方に分かれており、意識が全く異なり、地域に対する示唆、情報の受け取り方も全く違っていた。そういったことが今の課題なのかと、私自身、改めて感じたところである。

委員

当日、私は全体から意見交換の様子を拝見させていただいた。先ほどの委員の発言にもあったとおり、今回の地域福祉ワークショップには中央区が好きなだけでなく、中央区で何かやってみたい、貢献してみたいという思いを持つ方が多く参加されていた。

地域福祉ワークショップを積み重ねてきて、課題解決に向けた段階には至っていないが、新たな方にもご参加いただくことで、新たなつながりができていると感じている。委員のお話にあったように、ワークショップ終了後の交流、その場で連絡先を交換される方もいて、参加自体が新しいつながりづくりになっていた。そうした点でも、継続的な取組の大切さを改めて感じた。

他方、課題も多数共有されており、課題解決に向けた具体的な意見交換を行う場もやはり必要だと、改めて感じたところである。その中で思うのは、より「我が事」として捉えていただくためには、中央区全体、3地域のことも踏まえつつ、より身近な範囲でそれぞれの課題を共有しながら、具体的な解決に向けて意見交換を行う場が必要だという点である。その辺りは、私ども社会福祉協議会の出番だと感じており、今後取り組んでいきたい。

部会長

4人の方からご意見をいただいたが、事務局いかがか。

管理課長

私も2年間、地域福祉ワークショップに参加したが、大変和気あいあいとした雰囲気話し合っており、もう数回あれば更につなかりを深めていけるのではないかと思ったところである。

委員からもお話があったように、区ではなく社会福祉協議会で、より身近な地域で試行的に何回か意見交換を行う場を設ける話が出ている。そうした場を含めて、区としても協力していきたいと考えている。

部会長

1年に1回顔を合わせ、課題を共有するところで終わってしまうのが多くのパターンである。だからこそ、その後をどう仕掛けるかが大事である。色々迷うこともあると思うが、とにかくや

(3) 地域福祉専門部会
検討結果報告書につ
いて

部会長

ってみて、上手くいかなかったら次の手を考えるという感じで進めていくのも良い。こうしたら「正解」という答えはなかなか出てこない。先を読みながら、次の手を考えて取り組めると良い。

色々な波及効果を期待して、もう少し回数を増やせると良いのではないか。予算の問題、人手の問題、場所の確保もあるので、大変だと思うが、地域に波紋を広げることからはじめ、効果を出せると良いのだろう。

地域福祉ワークショップを始める時、当時の事務局に話したことだが、まず簡単に効果は出ない。1、2回、取りあえず行うのではなく、何度も繰り返し行わないと形にならない。後になって効果が出ると信じて、継続することが大切だろう。

報告事項(3)地域福祉専門部会検討結果報告書について説明を求める。

管理課長

資料4、地域福祉専門部会検討結果報告書について説明。

部会長

何かご質問、ご意見はあるか。

資料4は今までのまとめである。これまでの開催結果のまとめということで報告いただいた。

本部会は、本日で終了ということによろしいか。

管理課長

本部会は保健医療福祉計画2020における各取組の具体化を検討するために設置された専門部会である。令和6年度以降、重層的支援体制整備事業の実施や、ふくしの総合相談窓口の開設等に取り組み、本区における包括的な支援体制の具体的な取組を実施していく。

こうした検討が一段落したということで、本部会の設置はいったん終了し、今後計画の推進に当たり検討を要する事項等があれば、改めて皆様のお力添えを賜りたいと考えているところである。

今回、保健医療福祉計画2020は見直しを行い、令和8年度までの計画となっている。次回改定の際は、また本部会を立ち上げることになる。その際は、ぜひご協力をいただければと思う。

部会長

今回が本部会の最終回ということになる。どんな思いでも構わないので、よろしければ他の委員からもご発言いただければと思う。

委員

ふくしの相談窓口に関して、資料に書いてある既存の相談機関

	<p>に、我々は該当するのだと思いながら拝見していた。資料では、既存の相談機関の「のりしろ」を広げるとの記載があったので、私たちもバージョンアップしないといけないと思いながら、お話を伺っていた。</p>
部会長	<p>ふくしの総合相談窓口に注目しがちだが、既存の相談機関にもこれまで以上に頑張っていたきたい。</p>
委員	<p>逆に、既存の相談機関が存在感を出して、より頑張らなければいけないと思っている。</p>
委員	<p>私も4月から本部会に参加し、皆様の活発な意見を拝聴し、刺激をもらいながら職場に持ち帰っていた。</p> <p>相談事業に関しては、私も相談事業自体の経験がないこともあり、区民の方の困り事をしっかりと受け止めて、関係機関につなぐ役割を果たしていきたいと思っている。</p> <p>それと同時に、相談員は人数が少なくなっている中、多くの相談を受けており、解決できない部分がある等、現場の疲労等もある。その部分も、ふくしの総合相談窓口等と連携を取りながら解決できたら良いと思っている。</p>
部会長	<p>今、相談員が疲弊しているとの話があった。相談件数が増え、複雑なケースも増えている。一職員が対応する件数も増えているので、何らかのサポートをする必要がある。ふくしの総合相談窓口もできるため、そことどのように連携するかという話かと思う。</p> <p>委員からは何かご意見はあるか。</p>
委員	<p>部会としての役割は今回で一旦終わるが、区も、社会福祉協議会も、地域福祉を推進するための計画を持っている。両者がより密接に連携を強めながら、地域福祉の裾野が広がるよう取り組んでいただきたい。</p> <p>本部会を通じて、区の地域福祉政策に関わって良かったと思っている。</p>
部会長	<p>委員からはご意見いかがか。</p>
委員	<p>相談窓口が充実されるのは良いと思う。地域で困りごとを抱えていても手を挙げられない人に対して、私たちがどう関わっていくかについて、これから民生・児童委員として考えていく必要がある。</p>

部会長

あると思う。

事務局からも説明があったが、保健医療福祉計画推進委員会は、高齢と障害、子ども、保健の各分野別計画の委員長クラス、各課の代表が集まっている。

他区だと地域福祉計画は、方向性だけのところがあるが、中央区はかなり細かいところまで書かれており、よく取り組んでいる。

地域福祉計画が出てきた時、縦割りに横串を刺して、横でつなげるという意図があった。それはなぜかという、個別の問題は地域で出現するからである。横でつながる形にしないと、完全に地域から孤立して問題が見えなくなるため、縦割りのままだと上手くいかない。

また地域が孤立化、脆弱化しているのも、地域住民も孤立化しがちになっている。地域をいかにして強くするかが、重要と言える。社会福祉協議会はもちろん、行政もしっかりとコミットして進めていくことが大事だという点から、地域福祉計画が法律に規定された。

2000年、社会福祉法に地域福祉計画の策定が規定されたことは画期的なことだったが、それから20年近く経ち、形式化しているところもある。中央区の保健医療福祉計画2020は6年計画で、現在、中間年の見直しを進めており、3月には計画ができあがるが、実際どのように地域で取組を進めていくかは、保健医療福祉計画推進委員会だとなかなか議論できない。そのため、本部会で地域の最前線で活動されている方々から忌憚のないご意見を伺ってきた。計画本体が骨であれば、それに筋肉を付けて動くようにしたのが本部会という、大変意義のある会だった。

また、国（厚生労働省）においても社会福祉法等の改正が行われ、包括的支援体制や重層的支援体制整備事業が出てきた。それにどのように対応するか、皆様と議論できたことは、大変意味があったと思っている。

ふくしの総合相談窓口がようやく京橋地域に1つでき、日本橋地域・月島地域にもできる予定であるが、包括的支援体制や重層的支援体制整備事業は、これからその真価が問われていく。

この専門部会は1つの役割を果たし、今回で終了ということになる。部会長としては、皆様から生のご意見を聞くことができ、大変に勉強させていただいた。本部会でのご意見を保健医療福祉計画推進委員会にフィードバックし、中央区の地域福祉がより良いものになるように尽力できればと思っている。この4年間は、過渡期の、そして新型コロナ禍の4年でもあった。みなさまには

(事務連絡)

4 閉 会

		この間、本部会にご参画いただいて、本当にありがとうございました。
部会長		傍聴者の退室を求める。 《傍聴者退室》
部会長		最後に事務局から何かあるか。
管理課長		会議の時間内に発言できなかったご意見につきましては、意見票に記載の上、郵送、メール、ファクス等で2月16日までにお送りいただくようお願いしたい。 繰り返しになるが、地域福祉専門部会でご検討いただいた結果を計画等に反映させていただいている。皆様には地域福祉の推進に多大なるご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。
部会長		閉会のあいさつ